

2023年3月21日

医療の質向上と患者安全への患者参加の必要性

患者参加の必要性



宮崎大学医学部附属病院

医療安全管理部 病院参与 甲斐由紀子

サービスは「瞬間性」が重要

人は誰でも

- 自分が必要とされていることを知り、感じなければならぬ
- 一人の人間として扱われたいと望んでいる



- 情報を持たない者は責任を負うことができないが、情報を示せば責任を負わざるを得ない
- 責任を負う自由を提示すれば、人は内に秘めている能力を発揮する

医療サービスの特性

無形性

同時性

共働性

医療サービスは

・形がない

・予め、医療の品質を確認できない

・提供される場に患者も存在する

・プロセスが「品質」(価値)に繋がる

・患者体験の中で「結果」も期待している

contingent service

「瞬間性」が重要

患者に共通する言葉

事前に

合併症の発生を
聞いていれば…

結果は合併症でも
いい病院を知っていれば

治療を受けなかった
他の病院を選んだ

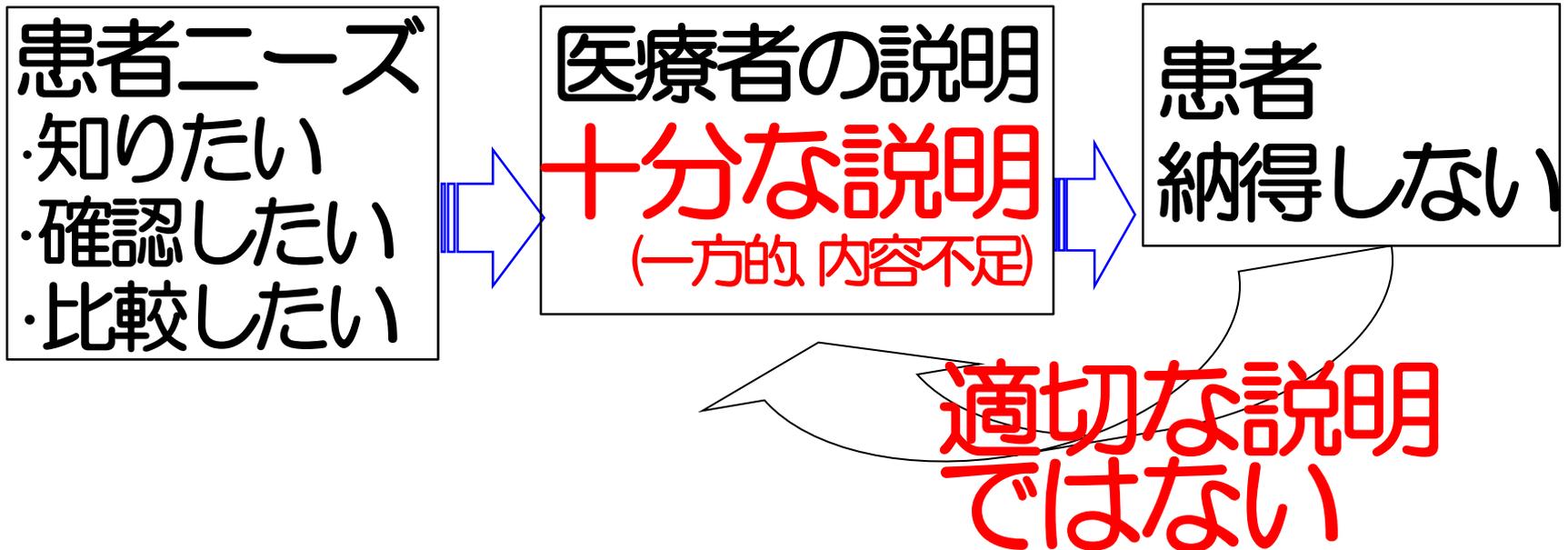
人権尊重

* 十分理解できる

* 治療目的でも同意を得ない医療は、
「ヒト」として接していないことになる。

「十分な？」説明

・診療情報の非対称性(情報量と質の違い)



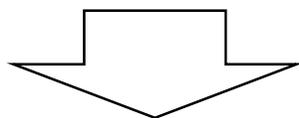
医療に対する

認識の齟齬(ズレ)

・医療者の認識

・患者・家族の認識

認識の齟齬



※齟齬＝ぼたんのかけ違い

※「手続の保証」が重要

なぜ、コミュニケーションが必要か 患者参加型の医療

医療安全
(Patient Safety)

医療決断
(Decision Making)

- ・医療に参加できるシステム作り
- ・医療者間・患者と医療者が話せる環境作り

- ・Informed Consent
- ・Informed Choice
- ・Shared Decision-Making
- ・Secondo Opinion, etc.

- ・Gapを埋める
- ・患者が話せる環境を作る

コミュニケーション

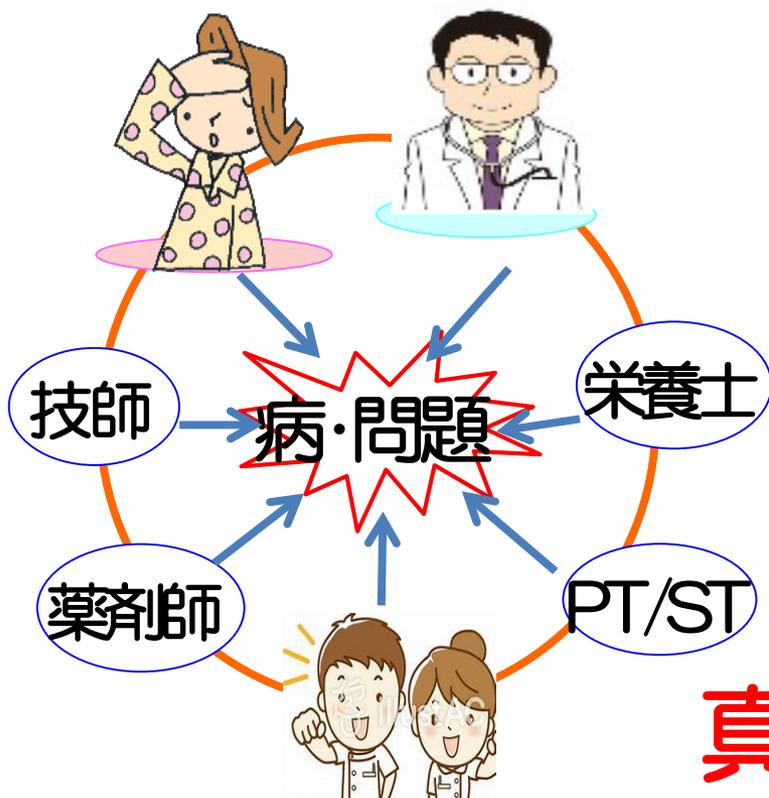
SDM : Shared Decision Making

(協同意思決定の役割分担)

- 医師・看護職が協働し、患者の決断を支援
- 患者: 自己決定権を駆使し、自己責任で決断
- 医師: 正確な情報・治療技術を伝える
適切な医療を行う
- 看護職: 同席し、コーディネート役
 - ・「何が判らないのか、解らない」を確認・解消
 - ・可能な限り、熟慮期間を設ける
 - ・必要に応じて、複数回の説明機会を設ける

患者の立場に立つ

「患者参加型医療」



- 「病・問題」は 人権を尊重して掘り下げ、全職種が力を合わせて解決
- S.D.M.から「インフォームド・チョイス」

自身の状態を理解(過剰診療の抑制)
治療に対し自己責任を持つ(治療効果の向上)
自ら治療法を選択(コミュニケーション向上 訴訟減少)

真の「民主的なチーム医療」

Patient Safety (医療安全)

➤ 医療安全 = 「患者を護る」+「医療者を護る」

➤ 安全は、見えない

➤ 健康回復を願う「患者への思い」も見えない

➤ 「患者への思い」が言動に現れて初めて伝わる

・「患者への思い」を可視化する方法を身に付けることは、医療者の礼儀(マナー)である。

意識作り、組織作り、知識作り、人作り！

2023年3月21日

医療の質向上と患者安全への患者参加の必要性

まとめ

社会的・
個人的良識！

➤ Common Sense

➤ 患者参加！

相互信頼・コミュニケーション

